授業科目	＊実践英語音声学Ⅱ					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	必修	開講年次	1	開講時期	後期
担当教員	西原　真弓						
授業概要	実践英語音声学Ⅱでは、前期の実践英語音声学Ⅰで学んだ英語の母音・子音やリズム・イントネーションなどに関わる英語音声の法則を応用し、より伝わりやすい発音方法について音声分析・自己評価しながら、さらに理解を深めていきます。また、より実践的な英語音声学の活用を目指し、マザーグース、絵本の読み聞かせ、英会話表現や洋楽の歌詞などを通じて、英語の音変化を含む英語特有のリズムや音声的特徴の体得していきます。これらの音声に関わる知識や技能を獲得することで、自然な英語を聞き取る力も同時に強化できることを体感し、最終的には自律的に発音の学習を続けていけるようになることを目指します。						
授業形態	講義・演習			授業方法	ペアワーク・グループワーク		

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	①英語の子音の調音点や調音方法について理解し、概ね説明できる。（DP1-2） ②英語の母音や子音を概ね正しく発音できる。（DP1-2） ③国際音声表記（ＩＰＡ）を使って書かれた表記を概ね読むことができる。（DP1-2） ④英語特有のリズムや音声的特徴について理解し、概ね活用できる。（DP1-2） ⑤英語音の聞き取りや発音のコツを理解し、日常英語で概ね活用できる。（DP1-2）
理想的レベル	①英語の子音の調音点や調音方法について理解し、他者にわかりやすく説明できる。（DP1-2） ②英語の母音や子音を自らが正確に発音できる。（DP1-2） ③国際音声表記（ＩＰＡ）を使って表記したり、ＩＰＡで書かれた表記を迷いなく読むことができる。（DP1-2） ④英語特有のリズムや音声的特徴について理解し、他者にわかりやすく説明できる。（DP1-2） ⑤英語の発音やリズムの特徴を十分に理解し、日常英語で自然に活用することができる。（DP1-2）

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験		
小テスト	50%	リスニングテスト 3 回(10 点×3）及び、音声学の知識確認小テスト 1 回（20 点）
レポート		
発表（口頭、プレゼンテーション）		
レポート外の提出物	40%	英語の発音、及び自分の発音向上に関する自己評価
その他	10%	授業内での発音練習の姿勢

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	○	DP2	-	DP3	-	DP4	-	DP5	-	ナンバリング	EN11102J

学習課題（予習・復習）	1 回の学習目安（時間）
授業内で学習したことの実践的復習 自己目標達成に向けての日々の練習計画に沿った実践的学習	4

You tube, TED Talk, 海外のニュース番組、洋楽などのシャドーイング	

授業計画	
第 1 回	授業ガイダンス 授業の進め方や評価方法、家庭学習の方法等について説明を行う。 英語の母音・子音・リズムの復習
第 2 回	Lesson1　音節と語強勢／発音練習
第 3 回	Lesson2　文強勢／発音練習 リスニング小テスト①
第 4 回	Lesson3　ポーズ／発音練習
第 5 回	Lesson5　音のつながりⅠ　連結／発音練習
第 6 回	Lesson6　音のつながりⅡ　脱落(1)／発音練習 リスニング小テスト②
第 7 回	Lesson7　音のつながりⅢ　脱落(2)／発音練習
第 8 回	Lesson8　音のつながりⅣ　同化(1)／発音練習
第 9 回	Lesson9　イントネーション―列挙と選択問題文／発音練習 リスニング小テスト③
第 10 回	Lesson10　機能語の弱形と強形／発音練習
第 11 回	Lesson11　音のつながりⅤ　同化(2)／発音練習
第 12 回	Lesson12　音のつながりⅥ　同化(無声化)／発音練習 音声学の知識確認小テスト④
第 13 回	Lesson15　話者の意図と強勢／発音練習
第 14 回	総括(1) 母音・子音の総括 ※課題提出
第 15 回	総括(2) 強勢・リズム・話者の意図の総括 課題返却、振り返り
テキスト	今井由美子／井上球美子　他共著　(2020 年)　『英語音声学への扉―発音とリスニングを中心に―』 【改訂版】Sounds Make Perfect　DVD 付　(ISBN:　978-4-269-63014-7)　2,640 円 ※前期使用教材を継続使用するため、購入の必要はない。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	必要に応じて適宜紹介する。
課題に対するフィードバックの方法	リスニング小テスト は、その場で採点し振り返りをする。 音声学の知識に関する理解度小テストは、採点し翌週授業内で返却、振り返りをする。 レポート外課題は、コメントをつけて返却する。 その他は、個々に対面でコメントをする。
学生へのメッセー	英語耳をつくるためには、いろいろな英語の音声に慣れる必要があります。そのためには、テレビ・ラジオ・インターネット・映画などを有効に活用して下さい。また、問題を解くという意識を捨て、可能な限り英語を聞き、使ってみる努力をしましょう。

ジ・コメント	